

平成30年度 第1回ちがさき自転車プラン推進委員会 会議録

| | |
|-----------|--|
| 議題 | (1) 第2次ちがさき自転車プランの中間評価について (諮問) (2) 自転車利用による健康づくりキャンペーンについて |
| 日時 | 平成30年5月28日 (月) 14時00分から15時00分 |
| 場所 | 市役所本庁舎4階 会議室1 |
| 出席者氏名 | (委員) ※計16名 齊藤 進、古倉 宗治、田野 敏明、新谷 雅之、平本 善昭、藤澤 努、 益田 和子、和田 高伸、山上 著、佐藤 たる子、小野江 達人、小 俣 晴俊、下江 晴治、竹中 尊男、福田 三朗、本田 弘巳、 (欠席委員) 三橋 博、露木 輝久、仲手川 仁志、牧野 末次 (事務局) 理事兼都市部長 大野木 英夫 都市政策課 課 長 後藤 祐史 課長補佐 守瀬 暢彦 主 任 山形 冬樹 安全対策課 課 長 梅原 正史 課長補佐 大八木 元 |
| 会議資料 | 次第 委員名簿 諮問文の写し 第2次ちがさき自転車プランの中間評価について (諮問) 資料1 中間評価シートについて (指標) (案) 資料2 中間評価シートについて (主要な取り組み) (案) 資料3 今後のスケジュール (案) 資料4 自転車利用に関するアンケート調査票 (案) 資料5 自転車利用による健康づくりキャンペーン概要 (案) 資料6 アンケート調査票について (案) |
| 会議の公開・非公開 | 公開 |
| 非公開の理由 | |
| 傍聴者数 | 1名 |

(会議の概要)

1 開会

2 委員の交代について

林委員に代わり、茅ヶ崎市まちぢから協議会連絡会 和田氏が委嘱を受けた。

3 議題

(1) 第2次ちがさき自転車プランの中間評価について (諮問)

諮問文の写し、資料1、2、3、4をもとに、事務局より第2次ちがさき自転車プランの中間評価の進め方について提案し、概ね了承を得た。

また、内容について質疑応答、意見交換を行った。

(2) 自転車利用による健康づくりキャンペーンについて

資料5、6をもとに、事務局より自転車利用による健康づくりキャンペーンの概要について提案し、了承を得た。

また、内容について質疑応答、意見交換を行った。

4 その他

次回は10月頃の開催を予定。

5 閉会

○事務局（後藤課長）

定刻になりましたので、平成30年度第1回ちがさき自転車プラン推進委員会を開催いたします。

私、本年4月より都市政策課長を拝命いたしました後藤と申します。よろしくお願いいたします。

本日は傍聴の方がいらっしゃいます。委員会の内容については、原則公開となっておりますが、傍聴の方はご発言できませんので、よろしくお願いいたします。

はじめに、本日、平成30年5月28日より、1名の委員の方が代わられています。茅ヶ崎市まちぢから協議会連絡会、和田高伸様でございます。和田委員、一言ご挨拶をお願いできればと思います。

<和田委員 あいさつ>

○後藤課長

ありがとうございました。

それでは、会議資料につきまして、確認いたします。先日事前送付させていただきました資料を本日お持ちになられていない委員の方はいらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは確認の方をさせていただきます。まず次第がございます。その次に委員名簿、それから諮問文の写し、第2次ちがさき自転車プランの中間評価についての諮問でございます。なお、諮問文の写しにつきましては、押印したものの写しを机上に置かせていただいております。続きまして、資料1：中間評価シート（指標）（案）、資料2：中間評価シートについて（主要な取り組み）（案）、資料3：今後のスケジュール（案）、資料4：自転車利用に関するアンケート調査票（案）、資料5：自転車利用による健康づくりキャンペーン概要（案）、資料6：アンケート調査票について（案）でございます。

また、当日、机上に置かせていただいております配席表および6月2日土曜日に開催予定のキャンペーンのチラシ、その他閲覧用に「第2次ちがさき自転車プラン」と「茅ヶ崎市のシェアサイクル推進に係る基本的な考え方」を机上に置かせていただいております。資料は以上でございます。ご確認いただけましたでしょうか。

そして、本日の会議は、20名の委員のうち、出席者が16名でございます。したがって、ちがさき自転車プラン推進委員会規則第5条第2項の規定により、過半数を満たしておりますので、会議が成立していることをご報告いたします。

それでは、次第の2、議題に入らせていただきます。規則に従い、これより、斉藤委員長に進行をお願いいたします。

○斉藤委員長

皆さん、こんにちは。それでは、平成30年度の第1回ちがさき自転車プラン推進委員

会を進めてまいりたいと思います。次第の方をご覧いただきたいと思いますが、主な議題ということで2点ございます。順番に進めていきますが、その前に、いつもお願いしている件なのですが、議事録署名人に、私と私が指名した委員の方、名簿順で毎回お願いしております。今回は、平本委員にお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

それでは議題に戻っていただいて、最初に第2次ちがさき自転車プランの中間評価について（諮問）ということで、事務局より説明をお願いします。

○事務局（守瀬課長補佐）

<諮問文の写し、資料1、資料2、資料3、資料4に基づいて説明>

○斉藤委員長

諮問文は、市長から委員会に対して、ちがさき自転車プランの施策の推進状況について中間の評価をしてほしいということで、まずこれが一番の大きなテーマになるわけです。その中間評価に関して、説明いただきました。事務局の方で評価シートを作っていたというので、中間評価を進めるにあたっての枠組みの考え方の説明があったと思います。

第2次ちがさき自転車プランでは総合指標と3つのまちづくりの方向性ごとの指標があったと思いますが、「おもいやりの人づくり」、「風を感じる空間づくり」、「暮らしを楽しむ仕組みづくり」それぞれに対して資料1のような形で、現状と目標があり、それらがどのくらい進捗しているのか中間評価するというので、その枠組みのシートを今回提案していただきました。主には、資料4で示されたアンケート調査を実施して、アンケートの結果等で進捗状況を評価していきたい、そういう内容であったと思います。

議題（1）中間評価の枠組み、考え方あるいはアンケート調査の内容、これらについてご意見、ご質問がございましたら、是非お願いしたいと思います。

○新谷委員

アンケートの調査票の中で、5ページの間21では「レンタサイクルシステム」とありますが、7ページの間25では「レンタサイクル、シェアサイクルの導入」とあります。ひとつは「レンタサイクルシステム」ですが、もうひとつは「レンタサイクルとシェアサイクルの導入」となっていますが、一般の人は「シェアサイクル」という表現がわかりやすいでしょうか。

○事務局（守瀬課長補佐）

最近話題にはなってきたてはいますけれども、一般の方の理解は進んでいないということもあるかと思うので、こちらは間26の自転車保険と同じように、説明書きを加えるようにします。

○斉藤委員長

記載を残しておいて説明を入れるのでしょうか。

○事務局（守瀬課長補佐）

はい、そのような形にしようかと考えますが如何でしょうか。

○古倉委員

あえて申し上げますと問25の選択肢20の次に選択肢21としてシェアサイクルに関する選択肢を作って、問21と整合を図る方法もありえると思いますが、問20は選択肢が多すぎますから、選択肢を増やすと余計に混乱してしまうのではないかという感じもします。

逆に事務局にお伺いしたいのは、問21の付問のレンタサイクルと、それから問25のレンタサイクル、シェアサイクルの回答をリンクさせて分析する可能性があるのでしょうか。もしあれば、選択肢を分けた方がよいかもかもしれませんし、もし分析しなければシェアサイクルの説明を記載してその違いが分るようにして市民の方に答えてもらうということもあると思いますが如何でしょうか。

○新谷委員

問21の方は利用する環境がよくなったかということ进行を問う設問です。シェアサイクルは現在行っていないことから、レンタサイクルシステムという記載になっている。問25の方は、今後レンタサイクルやシェアサイクルを導入したらどうかという設問なので、このような表記になっていると思います。したがって、一概にこれは同じではない。

○斉藤委員長

説明はどのように入れるのでしょうか。

○事務局（守瀬課長補佐）

うまく一言で言えるような形になるといいのですけれど。そこは今後考えなければならぬと考えています。

○古倉委員

説明としては、借りた所と返す所が同じということがレンタサイクルで、シェアサイクルはレンタサイクルも含んだ概念となります。借りた所と返す所が別の所でもよいというのがコミュニティサイクルです。つまりレンタサイクルを利用されていると、借りた場所と返す場所が同じにしないといけないということで少し不便を感じる。むしろ借りた所と返す所が自由に選択できる、つまり複数貸し借りする所があつて、どこで借りてどこで返してもよいコミュニティサイクルの方が市民にとっては便利だということがあると思

ますので、その辺を少し分けて施策としてみてみたいということであれば、選択肢を分けるという方法もあろうかと思えます。事務局として分けてみてみたいのか、その辺をどう考えておられるのでしょうか。

○事務局（守瀬課長補佐）

古倉委員のおっしゃるとおりです。シェアサイクル自体はレンタサイクルも含んだ概念になってきますので、事務局としては特にそこを分けて分析するという考え自体は現状では持っておりません。このままシェアサイクルの部分に説明書きを加えるのがよいのではないかと考えております。

○新谷委員

今、古倉委員がおっしゃったのは、コミュニティサイクルというシステムはあるけれども、レンタサイクルとコミュニティサイクルは、借りる人から見るとイコールではないわけです。それを同じ選択肢としていれてしまってよいのか。レンタサイクルとコミュニティサイクルは違う考え方なので、クリアにしておかないといけないと思えます。

観光協会としてコミュニティサイクルをどれだけ希望しているかは意外と大事なところで、今後このままのレンタサイクルでよいのか、それとも返す場所がどこでもよいコミュニティサイクルの方がよいのか。多分お客さんは、コミュニティサイクルの方が良いという人が多いと思う。その辺のところを分けて聞けると良いと思えます。

○事務局（後藤課長）

事務局から補足させていただきます。レンタサイクルとコミュニティサイクルの表記ですが7ページの選択肢20はあくまで今後の自転車利用の取り組みとしてどれがよいか、今後の話を聞いているところでございますので、レンタサイクルに加え、今後推進していくであろうコミュニティサイクルにつきましても、この中で位置付けていきたいと考えます。自転車プランの中でもレンタサイクルシステムの促進という項目がございますので、それに則した推進を今後も行っていくというところで、問25には入れていきたいと考えています。

○斉藤委員長

同じ選択肢にしていると、どちらを答えているのか分らないと思えますが、現状のレンタサイクルをさらに希望しているのか、それとも新たなニーズを踏まえたコミュニティサイクルを導入して欲しいのか。そういったことがひとつの選択肢だと、どちらか分らないですよ。言われているように、レンタサイクルは既に行っているので拡大となり、その一方でコミュニティサイクルはいろいろな概念であって、その概念でもっと広げてほしいという希望なのか、そういうことがひとつの選択肢としてしまうとどちらにも読めてしまいます。

○新谷委員

今、神奈川県で、湘南地域自転車観光推進協議会というものを新たに立ち上げています。大磯町でシェアサイクルを始めましたが、藤沢市、茅ヶ崎市、平塚市、寒川町、大磯町、二宮町の三市三町で立ち上げて、市をまたいでシェアサイクルが出来ないかということで始まりました。また、小田原市の方でも始まりましたが、それを受けて、今後研究しているということになっています。観光協会としては、コミュニティサイクルが出来るならば、たとえば茅ヶ崎で自転車を借りて江ノ島で返すとか、江ノ島で自転車を借りて茅ヶ崎で返すということが出来る可能性があります。私は関わっていきたいと思っているので、このアンケートでコミュニティサイクルのニーズがわかるとありがたいと思います。

○事務局（守瀬課長補佐）

回答を分けるようにする形で如何でしょうか。

○斉藤委員長

その方が、意図がはっきりしてよいと思いますね。

○新谷委員

それとコミュニティサイクルの説明を入れてもらいたいと思います。

○事務局（守瀬課長補佐）

それでは、説明を加えた上で、回答を分ける様にいたします。

○斉藤委員長

その他、如何でしょうか。お気づきの点ありましたら是非。

○小野江委員

今、新谷委員がおっしゃられたように茅ヶ崎市と捉えないで、特に他市を跨いだとか、そういった文言が入っても面白いかなと思います。例えば、友達に来てどこか遊びに行くときに、茅ヶ崎から江ノ島に行って、向こうで自転車を返すことができれば、それはすごくありがたい話です。そういうことを盛り込んでいただくとレンタサイクルよりコミュニティサイクルの方がより一層、付加価値が生まれてくるかなと思います。

○事務局（守瀬課長補佐）

コミュニティサイクルの記載には、今おっしゃったような内容も付け加えて説明をするようにいたします。

○新谷委員

アンケートはなかなか答えてくれないところもあります。キャンペーンのチラシに記載がありますが、アンケートに回答頂いた方には先着200名にエコバッグをプレゼントするとあり素晴らしいのですが、200名を超えてしまうと何もあげないのでしょうか。

○事務局（守瀬課長補佐）

今、ご覧になっている資料は別のキャンペーンのチラシでございまして、アンケートにはボールペンを同封するつもりで考えております。

○斉藤委員長

委員のご指摘の様に、回収率をいかに上げるかということは非常に大事な課題なので、ボールペンを同封して頂くということを事務局で考えているということです。

○古倉委員

ひとつは資料1の実績値に現在黒丸が入っていますが、数値が具体的に入るのはアンケート結果が出た時点だと思いますが、「アンケートより」と書いていないところはいつ出てくるのか気になります。次回の委員会までにアンケート結果が整理され、「アンケートより」となっているものはその時点で分かっている数値が示されるという理解でよいのでしょうか。この指標について、交通安全教室受講者数はアウトプット指標となり、受講者数がたくさんになればなるほどルールを守る人が増えたということがアウトカムとなります。アウトプット指標は施策の実施状況であり、アウトカム指標はその結果としてルールを守る人が増える、事故が減るということであるが、そのあたりを分けて議論した方が良いと思います。

もうひとつは、100%、70%、70%未満の3段階で評価することになっていて、7割を満たしていないとバツになる厳しい評価となっていますが、そのあたりを設定した説明があった方が良いと思います。

○事務局（守瀬課長補佐）

一点目については、例えば資料1の交通安全教室受講者数の黒丸の下に「H29」と書いてありまして、それは29年度の受講者数という意味で書いておりまして、その数値を入れて提示する予定です。

二点目の評価につきまして、○△×の考え方についてですが、プランを作った以上は達成することが望ましいですが、背伸びしても仕方ないので、素直に考えた時に概ね達成という部分の考えると7割程度が適当であると事務局では考えており、その辺りで線を引くことを考えています。○△×の考え方として、70%をラインと考えていますがいかがでしょうか。

○古倉委員

一点目の方は、黒丸の部分は現在でも数値を入れることはできるということでしょうか。黒丸とすると不可解な感じがするものですから、評価は後から入れるとしても数値があった方が良くと思ったのが感想です。また、70%については、何か他の計画や評価で事例があれば良いと思いました。そのあたりの説明をしていただいた方が、評価をする委員としても良いと思いました。そういったものがないと、どうしてだろうと絶えず思いながら評価しなければならないので説明があると良いと思いました。

○事務局（守瀬課長補佐）

一点目については、数値自体は出せる状況にあるものもありますが一部だけ数値を入れるとわかりにくくなると思ったので、今回の委員会では全て数値を伏せた形で出させていただいています。二点目の70%について、市として統一的なものはありませんが、例えば下水道整備計画の中間評価では約7割を基準に評価しているので、それと同様に考え、7割という数値を提示しています。

○新谷委員

例えば(1)の交通安全教室受講者数が約18,000人の目標に対して実績値が18,000人であれば100%であるし、9,000人であれば50%となり数値が計算できずありますが、それでも評価しなければいけないのでしょうか。

○福田委員

設問ごとに評価を変えなければいけないと思います。目標18,000人に対して70%で概ね達成ということは、現状値より下回っても70%以上であれば達成となってしまいます。満足度についても、「市内を自転車で移動する際の満足度」の目標値が40%となると7割の達成率だと28%となり、現状より下回っても概ね達成となってしまうので、設問ごとに基準値を設けて○△×と決めた方が良くと思います。

○斉藤委員長

資料2の裏側を見ていただくと、たぶんここに今言われたようなコメントが出てくると思います。目標値に対して下がっているけれど、70%いつているからよいのではないかということがここで書かれると思います。事務局では、全体を統一して70%を基準として評価を行うが、ここで取組みに関する評価をコメントとして入れていくということを考えているとも読み取れるのですがどうでしょうか。

○事務局（後藤課長）

そのとおりです。

○斉藤委員長

話が戻りますが、皆さんが言っている評価の数値の設定について、なぜ70%ということは、他の計画で評価している意味などを加える必要があると思いますが、その辺りを加えていただくと良いと思いますがどうでしょうか。

○事務局（後藤課長）

個別に指標を設けてはいかがかという話がありましたが、事務局としては、委員長からお話があったようなところで考えていました。まず、全体を100%以上、70%以上、70%未満の3段階で荒削りな評価をした上で、最終的に前回の目標値より下がってしまう部分については、その後コメント等で補足する様な評価の方法がよろしいと考えていたところでした。

○斉藤委員長

諮問書をご覧くださいとわかりますが中間評価を行うということですが、中間評価を文章だけで行うのか、数値が出てきているので数値で明示するのか。あるいは数値で明示すると福田委員から話があったように前回より下がっている場合、数値はクリアしているけど前回より下がっているというおかしなことが起こり得るので、数値を明示しながらそういった状況があれば問題点としてコメントで指摘するという複合的な方法で評価していきたいということが事務局の案であると思います。皆さんが指摘されているように数値が以前より下がるということがある場合は中間評価で厳しいコメントをしていったらどうでしょうか。項目ごとにバラバラの基準を設けることは難しいと思うので、なぜ70%なのかという理由を明確にしたらどうでしょうか。このままでは誰が読んでもなぜ70%なのかと思うので、その辺りを明確にさせていただいたらどうでしょうか。

○新谷委員

%がなければ、○か△か×でわかりやすい。%が入ってくるからわかりにくい。

○平本委員

他の計画ではABCで評価しているものがあります。達成したものはA、概ね達成はB、未達成はCというように評価しており、70%と数字で示すことが煩わしいのでABCで評価すればよいのではないのでしょうか。

○益田委員

評価は他の計画でもしていると思います。総合計画等も評価されていると思いますので、茅ヶ崎市の全体の評価基準のようなものにあっていればよいと思いますし、そういったところとあわせることができるのか質問させていただきたいと思いました。

○斉藤委員長

妥当性については確認できますでしょうか。

○事務局（後藤課長）

70%の妥当性については、事務局で再度整理し、なるべくわかりやすい表記をしたいと思います。

○斉藤委員長

中間評価の形を検討しているわけで、数値を出した方がはっきりするのか、もしくは数値がなくて粗いランク付けの方がうまくいくのか、もしくは両方必要なのか、少し評価を行ってみてから判断しても良いのではないのでしょうか。これでなければならぬとなると、皆様が言われるようにこの視点が抜けているという話が出てくるかもしれません。少しやってみて、実際に数値を入れながら、平行して評価していく形でいかがでしょうか。他の計画を参考に70%を基準に評価するならその70%の根拠が何なのか、また、前回の達成率に対してどうなのかコメントをまとめて、それらを通じてどう評価するのがよいのか判断しても良いと思います。今数字が黒丸で表記されていますが、どうやって評価していくことが良いのか、この方法が絶対であるといったことが、今は言えないと思います。

○和田委員

益田委員から他の計画でどのような評価を行っているかという話がありましたが、私のごみの審議会に出ていましたが、その時は定性的な評価が結構ありました。その時はABCで評価をしていて、例えば市はA評価であるが委員はB評価ということもありますし、逆もあります。数値を頭に入れながら現実的にはそのような評価をすることもあると思います。定性的な評価と定量的な評価の中間的な評価なので難しさもあり、やり方次第では多少ぶれがありますがそのような方法もひとつだと思います。

○斉藤委員長

ありがとうございます。どうでしょうか。今のところはこのように出させていただきましたが、具体的な数値を入れながら、庁内の他の評価方法と比較しながら、評価していてもよいのではないのでしょうか。

○事務局（守瀬課長補佐）

評価を行いながら考えていきたいと思います。

○斉藤委員長

その方が納得いく結果となるような気がします。よいのでしょうか。皆様の意見を入れた方がよい評価ができると思います。頂いた意見を踏まえながらアンケート結果等を見なが

ら中間評価シートを作っていくということなので、意見を頂きながら中間評価していけたらと考えますがよろしいでしょうか。では、意見を踏まえて試行錯誤しながら評価をしていく。評価は非常に大事であります。評価の途中でその方法が良かったということは絶対あります。プロセスをみながら評価の内容を考えていくことは事務局にとって大変だと思いますが、試みとしては非常に素晴らしいことです。内容が充実すると思います。

それでは次の議題に移ります。健康づくりキャンペーンを行うということで、内容の説明、協力について事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（守瀬課長補佐）

<資料5、資料6に基づき説明>

○斉藤委員長

ありがとうございました。こちらの自転車利用による健康づくりキャンペーンについて、イオンさんのご協力をいただきながら実施するということではありますがいかがでしょうか。

○田野委員

古倉先生の講演の時間はどのように告知するのでしょうか。

○事務局（守瀬課長補佐）

当日会場にタイムスケジュールを掲示すると同時に、イオンさんのご協力で店内放送を行うことで、いらっしゃっている方にご案内を行います。

○斉藤委員長

古倉先生に多大なご協力を頂きながら実施することになっています。よろしく願いいたします。

○古倉委員

補足させていただきたいと思います。自転車利用と健康は自転車活用推進法でも大きな目玉のひとつとなっています。これから健康なまちづくりをするためには自転車が欠かせないというストーリーになっています。一点だけ申しあげますと茅ヶ崎市は事故が多いと言われていますが、人口10万人当たりの死傷者数は全国では85人ですが、茅ヶ崎市は70人と全国平均をだいぶ下回っていますし、65歳以上の高齢者についても60人くらいということで、高齢者の方が事故率が低くなっています。茅ヶ崎市の前のアンケート結果ですと、高齢者の自転車利用者数も結構おられ、若い方と同じくらい利用しているということで、自転車利用が少ないから事故が少ないわけではないと思います。高齢者はルールを学習すると、比較的ルールを守られる方が多いことは他のアンケートでも分かっている

ます。若者はルールを知っていても守らない人が多いですが高齢者はルールを守っていた方が多いということを前提とし、自転車を活用して買物をしていただく。厚生労働省の計算だと片道20分の利用を1週間に5回くらい行くと生活習慣病、認知症の危険性が相当程度低減できるということになっているので、ルールを守りながら、自転車に乗っていただけると良いと思います。例えばウォーキングは膝が悪い方はできませんが自転車は座っていけるから膝にかかる負担も少ないので、膝の悪い方も利用可能となります。膝にかかる体重もウォーキングでは着地時点で2倍の負荷がかかりますが、自転車では体重の30%程度と負担が軽くなります。しかも、歩行者と自転車の事故率をみますと、100万人あたりの死者数は歩行者の方が自転車の3倍くらい多い。65歳以上ですと、徒歩の場合で100万人あたり33.3人亡くなっていますが、自転車の場合は10.8人となり歩行者の方が3倍くらい死者数が多い結果となっています。もちろんルールを守って安全運転を心がけていただくことが大前提となりますが、それによって確保できる運動量が結構あるということになり、自転車によるまちづくりをしている茅ヶ崎市では相当の生活習慣病の予防になるのではないかと思います。

○山上委員

資料6のアンケートで質問です。健康づくりキャンペーンとありますが、問3はどのように活用していくという考えなのか教えてください。

○事務局（守瀬課長補佐）

自転車の方は荷物をたくさん持てないので1回あたりの購入金額は少ないけれども、その分たくさん来てもらい、結果的に購入金額が多いのではないかという仮説があり、その辺りを確認したいと考え、設問を設けています。滞在時間はそのあたりと直接的な関係があるのか、手段ごとの集計を行いたいと考えています。

○古倉委員

この設問は私の方から入れていただいた経緯がありますので付け加えて説明させていただきたいのですが、過去に宇都宮市の駅前のスーパーなどで同じように調査をしております。一回当たりの金額について自動車、自転車に分けて平均値を出すと、自動車で来店されたの方が一回当たりの金額は大きかったという結果でありました。確かそれぞれ5,000円と3,000円くらいで自動車の方が金額が多かったという結果です。しかし、来店回数は、自転車は3回/週くらい、自動車は1回/週くらいであり、来店回数と購入金額を掛け合わせると、自転車の方がこまめに来店していただいている分、売り上げの合計が多いということがわかりました。他の地域でも同様の結果がでています。特に宇都宮市は自動車王国ですが、自転車の方が売り上げが伸びる可能性があるということがわかり、自動車ばかりを推奨するのではなく、自転車による来店、つまり健康を確保していただける方法を提供できるのではないかとすることが大きな流れとなっています。また、滞在時

間については、お店では賑わいが重要なポイントであり、店側もなるべく長い時間滞在していただいた方が良いのですが、チェーンストア協会のお話では3分間長く滞在していただけで購入品目が1.5品目増えるというデータもあるようなので、賑わいと売り上げが伸びて全体の経済活動が盛んになる。健康、経済、賑わいという面から自転車利用による買い物が重要なテーマになるのではないかと考えております。

○福田委員

古倉委員の講演の時間はまだ決まっていないというようなニュアンスで、当日店内で案内されるということでありましたが、告知すれば古倉先生の講演を聞きたいがために行く人もいると思います。この10時から16時のどのタイミングで講演があるのか、当日店に行かないとわからないのでしょうか。

○事務局（守瀬課長補佐）

古倉委員には11時からと13時からの2回講演をしていただく予定です。

○斉藤委員長

チラシに講演時間を書いておけばよかったと思います。

○事務局（守瀬課長補佐）

チラシを作る時までに講演時間の調整が間に合いませんでした。本来であれば講演時間も書くべきところですが、間に合わなかったので講演をしていただくことのみを掲載しました。

○斉藤委員長

当日は店内放送と、入口に何時から講演を行うか掲示するというところでよろしいでしょうか。

○事務局（守瀬課長補佐）

はい。

○田野委員

キャンペーンのチラシに自転車の利用割合が神奈川県で1位の「自転車のまち茅ヶ崎」とありますが、この利用割合というのはどういうことでしょうか。

○事務局（守瀬課長補佐）

自転車プランの6ページを開いていただきますと、説明が記載されております。東京都市圏パーソントリップ調査というものがございまして、その結果から茅ヶ崎市が県内で自

転車の利用割合が一番高いという結果となっております。

○田野委員

計算の方法を説明して欲しい。

○事務局（守瀬課長補佐）

同じページに注釈がありますが、パーソントリップ調査の考え方でトリップというものがございまして、そのトリップ数から交通手段の利用割合を計算しています。鉄道、バス、自動車、二輪車、自転車、徒歩というモードがございまして、その中の自転車の利用割合を計算しています。

○平本委員

イオンの1階正面出入口フロアでよくキャンペーンをやっているのですが、あそこは歩いて来店される方や自転車を利用する人ばかりで、自動車の人は通過しません。自動車の人は4階や5階から来店し、1階の出入口は自転車や徒歩だけという感じがします。

○事務局（守瀬課長補佐）

イオンさんに御協力いただき、駐車場から降りてくる3階のエスカレーターのところでもアンケートや告知を行うようにいたします。

○斉藤委員長

1階だけでは徒歩と自転車ばかりになってしまうということなので、ぜひお話があった3階でもやっていただきたいと思います。それでは古倉先生よろしく願いいたします。皆様もお知り合いの方や団体の方に呼びかけていただければと思います。

予定された議題は以上ですが、あとで事務局からも説明があると思いますが、今後の予定として、我々の任期は11月の中旬に終了します。それまでに中間評価をまとめて答申をしたいと思います。全体のスケジュールは10月の末頃に評価をまとめるというスケジュールとなります。この間、6月に市民アンケートを実施して、その後集計して、中間評価案を各委員に提示して、委員から色々意見を頂いて10月末の答申に向けて、とりまとめをしていくということなので、中間評価への意見の打診があれば、意見を頂けたらと思います。よろしく願いいたします。

では、予定の議題は終了したので、事務局の方で連絡事項等がございましたらよろしく願いいたします。

○事務局（後藤課長）

様々なご意見をいただき、ありがとうございました。いただいたご意見につきましては修正をさせていただきます。今後進めさせていただきます。また、今後の予

定でございますが、6月～7月にアンケートを実施、集計とりまとめを行いまして、8月頃に委員の皆様へ中間評価書案を送付させていただきますので、ご意見等をいただけたらと思います。次回の会議は10月頃に、答申案を議題として開催を予定しております。なお、本日お車でお越しの委員の方で減免手続きをまだ行われていない方は事務局までお申し付けください。

○斉藤委員長

では、これで会議は終了します。

会長署名 齊藤 進

委員署名 平本 善昭